

会 議 録

1 会議名

令和2年度第12回安塚区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○協 議（公開）

（1）自主的審議について

○その他（公開）

3 開催日時

令和3年3月23日（火）午後6時から午後8時4分まで

4 開催場所

安塚コミュニティプラザ 3階 大会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

・委 員：池田裕夫、池田康雄、石田ひとみ、小松光代、新保良一、中村真二
外立正剛、秦克博、松苗正二、松野修、山岸重正、吉野誠一

・事務局：安塚区総合事務所 岩野所長、大橋次長、石川市民生活・福祉グループ長
（併教育・文化グループ長）、村松班長、萬羽主事

8 発言の内容（要旨）

【大橋次長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【松苗正二会長】

- ・挨拶

【大橋次長】

本日の会議録の確認は、内規により松苗正二会長にお願いする。

条例第8条第1項の規定により、松苗正二会長から議長を務めていただく。

【松苗正二会長】

それでは、次第3協議事項（1）自主的審議について、から議事を進めていく。事務局から説明等あるか。

【萬羽主事】

本日は自主的審議について、地域協議会全体で協議いただく。第10回、第11回地域協議会終了後に3班に分かれて意見交換をしていただいたところである。本日の地域協議会開催にあたり、前回の意見交換終了後に各班から発表があった内容について、記録をまとめたので参考として事前に配布している。そちらの内容も踏まえ、本日協議いただきたい。

【松苗正二会長】

3班に分かれて意見交換を前回と前々回の2度実施し、前回の意見交換終了後には各班から発表いただいた。また、本日の地域協議会開催にあたり、事務局から参考資料として発表の記録が配布されている。各自内容を熟読されていると思うので、御意見のある方は発言をお願いしたい。御意見のある方はいるか。

【外立正剛委員】

私は前回欠席したため、発表の記録を読んだ中で不明な点がいくつかあった。例えば、記録の3ページ目に吉野委員からの発言として、「総論は一緒であった」との発言があるが、記録を読む限りではどの部分が一緒であるのか、疑問に感じた。各班から色々な意見が出ている中で、どの部分を指して、そのように発言されたのか、説明いただきたい。

【吉野誠一委員】

ほかの班で出された意見の詳細までは分からないが、安塚を良くしたいという総論は皆一緒であり、その手法として各論は色々あるという意味で申し上げたものである。これまでの議論を見ていても感じるが、農業がこうだから農業をこうしようとか、人口が減っているからなんとか交流人口を増やしていこうとか、全て対処療法に留まっているように思う。もう少し深く掘り下げて、安塚を良くするために何が一番の問題なのかということを考えて方が良いと私は思っている。

【松苗正二会長】

吉野委員から、安塚を良くしたいという思いは一緒ではないかという御説明があったが、外立委員いかがか。

【外立正剛委員】

これまであまり読む機会がなかったため、地域協議会委員の手引きを改めて読み返し

てみた。地域協議会委員の役割など色々と書かれているが、自主的審議とは、基本的に地域との話し合い等を通じてテーマを見つけ出し、それを全体で協議するものと書かれている。私は欠席してしまい、申し訳なかったが、皆さんからたくさんの意見が出されていて、市からもこれまで様々な資料が提供されている。本日テーマを決めることになると思うが、皆で意見を出し合って良いテーマに決められればと考えている。

【松苗正二会長】

外立委員から本日テーマを決めるというようなお話があった。できれば、本日テーマを決めて前に進んでいければと思っているが、これまでの意見交換の内容を踏まえると、本日一つにまとめることは難しいかもしれない。その場合には、次回以降改めて協議の場を設けることとなるが、できるだけそれに近づけられるように協議をしていきたい。

本日の議題はこの1点のみである。皆さんの中でどれくらい時間をかけることが可能か。2時間くらいでもよろしいか。

【池田裕夫委員】

まだ時間も早いので良いと思う。

【松苗正二会長】

それでは、とりあえず2時間程度を目途に協議していきたい。

3班から色々な意見が出されたが、吉野委員が言われるように総論は安塚を良くしたい、元気にしたいというものであったと思う。内容について言えば、A班は意見集約をするためにNPO雪のふるさと安塚をはじめとする各団体のところへ行って話を聞き、問題点が挙げればその改善を図るべきというような内容であったと思う。B班についても、議論をもう少しオープン化して、A班と同様に地域の話の聞きに行きたいという内容であったと思う。C班については、先日行われた野澤副市長の講演の内容も踏まえて、住民組織をなんとかできれば良いのではないかという内容であったと思う。

協議に入る前に、野澤副市長の講演についても事務局の方で作成した記録が事前に配布されている。その内容を見ると、組織として何か作ってもらえれば、市はいくらでも協力するよというお話であったと、個人的には感じた。もちろんNPO雪のふるさと安塚を中心として動いていくことも重要であると思う。また、野澤副市長の講演では、特定非営利活動法人マミーズネットについてのお話もあり、こちらの団体は子育てについて広く情報発信等行っている団体である。安塚においても、子育てに限らず幅広い分野で情報発信を行う組織を作ることも重要ではないか。

A班、B班から発表があったように各団体等と意見交換を行い、何が問題で、地域活

性化のために何が必要であるのかを確認するというのも一つの方法であると感じている。

私の意見としては、以上のようなものであるが、皆さんの御意見を池田裕夫委員から一人ずつ伺いたいと思う。

【吉野誠一委員】

何を言えばいいのか。野澤副市長の講演についての意見ということか。

【松苗正二会長】

そうではなく、前回の各班からの発表を踏まえて、どのようにこれからテーマとしてまとめていったら良いかということである。先ほど私が述べたのは、私個人の意見である。

【池田裕夫委員】

先ほど松苗会長からヒントのようなものを示していただいたと思う。安塚においては、雪だるま財団なども関係してくるかもしれないが、やはりNPO雪のふるさと安塚が核になると考えている。NPO雪のふるさと安塚が現在どのように考え、どういう問題があるのか、まだ私たちは把握しきれていないと思う。先日少し報告があったが、まずは地域協議会として、もっと踏み込んで一緒に話し合える場を作っていく必要があるのではないかと感じたところである。今日ここで方向性を出すよりも、NPO雪のふるさと安塚や関係団体と話し合いができる機会を持てればと思っている。

【池田康雄委員】

私もまだ頭の中でまとまっていない状況である。野澤副市長の講演を聞き、NPO雪のふるさと安塚がもっと中心になって力を発揮していくべきだというような印象を受けた。その後の意見交換では5団体から発表があったが、NPO雪のふるさと安塚の代表理事の話は非常に短くて、特にこうしていくというような具体的な話はなかったように思うので残念であった。どういった仕組みなのかはよく分からないが、雪だるま財団からは1億5千万あるのに、それは使えないお金であるというような話もあった。野澤副市長の講演や前回の各班の発表を聞いた中で、NPO雪のふるさと安塚を中心としてやっていくような方向性を出すべきであると私も感じた。

【小松光代委員】

住民組織のNPO雪のふるさと安塚を中心にとということで、お二人から御意見があったが、NPO雪のふるさと安塚が今どのように考えているのか、よく見えてこない。そういった中で、NPO雪のふるさと安塚に全部やってもらうよう投げかけるのは、どうなのかと感じる部分もある。NPO雪のふるさと安塚として、どのような考えを持って

いるのか、今回まだ理事会が開かれておらず、代表理事の姿勢や考えが伝わってきていない。安塚区内の各団体のとりまとめをしてもらうまでには、もう少し話し合いなどを重ねて、できることとできないことを整理する必要があるのではないかと。お互いに納得したうえでないと、うまくまとまらないと思う。NPO雪のふるさと安塚としても色々考えていると思うが、まだ見えてきていないので、確認していく必要がある。

【新保良一委員】

人を頼る、NPO雪のふるさと安塚をはじめとする他の組織を頼るということも必要であると思うが、やはり地域協議会委員として、誰かを頼るだけではなく、自分たちからも自主的にどうしたらいいのかを考えていかなければいけないと思う。今年度最初に発行した地域協議会だよりも書かせてもらったが、地域を活性化させるうえで、収入が伴わないと真の心のゆとりも出てこないと思う。面白かった、良かったというだけではなく、収入が伴うことで生活にも心にもゆとりが生まれるため、これは大変重要なところである。では、具体的にどうしたらいいかとなると、外立委員が言われたようになかなか難しい問題で、こうすればいいというような結論はすぐに出せない。地域活動支援事業では、各団体から良い提案もなされている中で、地域協議会委員は採択するだけではなく、その事業を基にしながら収入を伴わせることで、皆が心豊かになれるような取り組みを進めていければ良いと思っている。すぐに結論を出すことは難しいが、そういった方向の取り組みが必要であると考えている。

【中村真二委員】

具体的にどういったテーマにしたら良いかについては、前回の班ごとの話し合いの中でも苦労した。今も自分の中で、これがいいというように具体的に示すことはできない。

しかし、各班からの発表を聞いた中で、少し注目したキーワードがあったので、それについて発言したい。一つはC班から出た「住民組織」という言葉である。野澤副市長の講演でも、住民組織が機能してもらえれば市としても応援しやすいというようなお話があったと記憶している。安塚区では、NPO雪のふるさと安塚などがそれに当てはまると思うが、実際に何かをする場合には町内会や自治会単位で動くことが多いので、それらの単位で動いて応援してもらいやすい方法ができれば良いと思う。おぐる地区では、おぐる地域活性化協議会という組織もある。活動の内容にもよると思うが、どういう形にすれば、市からの応援が得やすいという風に、擦り合わせやマッチングの研究のようなことを地域協議会としてできれば良いと感じた。もう一つ注目したのは、A班から出た「地産他消」という言葉である。これは、地域で生み出したものを地域以外の人に消

費してもらうことで、いわゆる外貨を稼ぐというような発想だと思うが、そういったことをする時に何をするかというと、誰でも思いつくのは観光だと思う。観光は観光で盛り上げたら良いと思うが、もう一つインターネット販売という分野がなかなか開拓できておらず、地域として取り組むというところまでつながっていないと感じている。そこで、地域協議会として安塚区の産品をインターネットで販売する方法を研究するというのも、安塚区を良くするための一つの具体的な方法であると思う。実際市内においても、私の知り合いにEC上越という組織をつくって、インターネット販売で頑張って商売をされている方がいる。そういった団体に話を聞くと、ヒントになるのではないかな。行政も上越市の産品をインターネットで紹介する取り組みを行っていたような気がする。そういうところも含めて研究し、安塚区として何ができるのかを探ってみるのも一つの方向性として良いと思う。

【外立正剛委員】

上越タイムスには、各地域の地域協議会の話題が掲載されている。例えば、浦川原区地域協議会と浦川原中学校が意見交換をして、問題点などを出し合い、今後どんな姿をつくっていきたいのか、話し合いをしたという記事が載っていた。ほかにも地域協議会の活動の様子が取り上げられている。現在はコロナ禍で各団体との話し合いを通じて問題点を突き止めていくという活動がなかなかできていないと感じる。皆さんが考えているテーマと似たようなものになってしまうが、各団体と話し合いを行って、そこで問題点として挙げた事項の中からテーマを決めて取り組んでいく形が一番良いと思う。野澤副市長の講演や各団体の活動報告の記録を読んだりしているが、まずは住民がどのようなことを考えているかを把握していないと、進めていくのは難しいと感じている。自主的審議については、そんなに急いでテーマを決めて、結論を出す必要はないのではないかな。安塚ではライステラス安塚が米のインターネット販売に取り組んでいるが、なかなか難しいというのが現実である。一つの仕掛けとして中村委員が言われた取り組みも良い方法であると思うが、関係する団体との話し合いの中から問題点を見つけることもできると考えている。

【秦克博委員】

自主的審議のテーマということで、まだはっきりこれだというものが自分の中になく、地域の活性化を目指すことはその通りであると思うが、地域協議会だけでできるものではないと思う。実際に動くのは団体や組織であると思うので、関係する団体や組織と意見交換をして、課題等を整理したうえで協力しながら進めていくことが重要ではないかな。

【松野修委員】

私もまだ意見はまとまっていない。皆さんがこれまで言われた通り、今は問題点を洗い出す段階であると感じている。私自身の知識を深める意味でも、区内の各施設が抱える問題点を整理することが一番であると思う。それからNPO雪のふるさと安塚と協力して進めるのか、雪だるま財団等のほかの団体も含めて協力して進めるのか、ということが出てくる。まず、何に困っているのか、今の活動をあと何年続けられるのかということも含めて施設の問題点を聞き取り、そこからどうすればいいかという風に持っていけないとダメだと思う。それをまとめて聞き取るところが今の安塚にはないので、地域協議会としてどのように聞き取りを進めていくべきかを検討し、方向性を出すことができればいいと考えている。

【山岸重正委員】

松野委員の意見と基本的に同じであるが、例えばNPO雪のふるさと安塚に取りまとめをお願いすると言ったところで、NPO雪のふるさと安塚としても何をしたらいいのか分からないのではないかと。だから、地域協議会としては、誰に頼むとかそういうことでなく、違う方向から考えていかなければいけないと思う。何でもかんでもNPO雪のふるさと安塚にやってもらうというのでは無理がある。何年か前にNPO雪のふるさと安塚から地域活動支援事業の提案があり、ほとんど全てが採択されなかったため、地域協議会に対してあまりいい印象を持っていなかった印象があるが、今はその当時と状況も違うと思う。その辺りも含めて、NPO雪のふるさと安塚だけでなく、松野委員が言われたように広い視野から課題を整理して向かっていくべきである。

【吉野誠一委員】

私は皆さんと考え方が全然違って、野澤副市長の講演はあくまで地域の中からそういう声が挙げれば応援するよという内容であったと思う。地域協議会としてそれを取り上げてほしいということではない。地域協議会というのは、諮問機関と言われながらも二つの権限を持った立派な組織である。一つは、諮問に対して答申という意思表示をするという権限であり、もう一つは自主的審議として意見書をまとめて提出することができるという権限である。これは言い換えると、意見書を受け取った市はその実現に向けて努力する義務を課せられるという大きな権限を持っていると、私は考えている。

こうしたらどうだということで、色々な意見が出されているが、従来から言われているような一つ一つに対応していく対処療法ではなく、結局は過疎や少子高齢化というところに一番の問題があるので、それを抜本的に克服するためにどうしたらいいかという

方法を考えるべきであると思う。突飛もない意見であるが、この前の会議の中で私はきれいな空気と豊富な水があれば可能であることから、水素工場を誘致してそこに勤める人が増えれば定住につながるということを申し上げた。また、安塚には雪を使うという技術があるため、雪を使って日本中のサーバー団地をつくるということも可能であると考えている。それは環境問題の面からも相当効果的である。要件は二つで、一つは光回線が二方向あることで、NTTの回線が来ているし、虫川大杉駅までほくほく線が来ている。もう一つの要件は、電力が二方向あることで、これは直江津の火力発電と東北電力で二方向ある。このような要件が満たせれば現実的に可能であり、安塚が良くなって、定住者を増やすためにはそういったものを誘致して雇用の場をつくるのが一番良いのではないかと。それが抜本的な解決法であるとすれば、意見書としてまとめ、市はどういう努力をしてくれますかという風に問いかけをすることが、地域協議会のあるべき姿であると考えている。

【石田ひとみ副会長】

自主的審議については、皆さんそれぞれ色々な考えがあって、簡単にまとめられる話ではないと思う。安塚には農業を主としている方や工業など色々な産業に関わっている方、そして一般のサラリーマンと色々な方がいると思うが、その中でもやはり一番重要となるのは、農業に関わっている方に対する支援策であると思う。地域おこし協力隊を例として考えると、それぞれの地域に来て農業をやってもらいたい、高齢者の方の仕事を手伝ってもらいたいという気持ちが前面に出てしまって、来てくれる方がここで農業をしたいのかどうか意見をしっかりと聞かないため、最終的に諦めて帰ってしまうという状況が起こるのではないかと感じている。地域協議会で地域を活性化するために何を自主的審議として取り組むか考えた時に、十人十色それぞれ考えがあるので、なかなかすぐに決めるのは難しい。12人の委員がいる中で、安塚の将来のことを考えて一つに決めていくためには、もう少し皆さんで話し合っ、少しずつ集約していきながら、テーマを決めていった方が良いと思う。

【松苗正二会長】

皆さんの御意見をお聞きすると、NPO雪のふるさと安塚にばかり頼るべきではないという御意見が多かったと思う。当然私自身の考えもNPO雪のふるさと安塚に協力を得なければいけないというのではなく、野澤副市長の講演の内容もNPO雪のふるさと安塚は中核であるけれども、そこを頼りなさいというものではなかったと思う。NPO雪のふるさと安塚に話し合いの場に参加してもらうことは重要であるが、全て丸投げ

するという事ではない。皆さんの御意見を総合すると、色々な団体等の話を聞き、問題点を整理することが重要であるという御意見が多かったと思う。そのほかには、中村委員から、どのような団体であれば応援できるのかを整理したり、インターネットを活用した情報発信や製品の販売力の強化を図る取り組みを行うべきという御意見もあった。また、一番基本となるテーマを考えるのであれば、吉野委員が言われたように安塚を良くするためにはどうしたら良いかという方向性を示すべきという考え方もある。細かい内容を関係する団体等に聞いてからというのは難しいと思うので、やはり最初に大きなテーマを固める必要があると私は考えている。問題点を聞いてからとなると、何年もかかってしまうし、それを集約するのは大変難しいと思う。吉野委員が言われた安塚を良くするためにはどうしたら良いかというテーマであるとか、前期に取り組んだ人手不足のような大きなテーマがないと進めていくのは難しい。どうしたら良くなるのかというテーマを決めてから、個別に意見を聞きに行くのであれば問題ないと思う。前回の各班からの発表も踏まえて、大きなテーマをどうするのか議論したい。お金を稼ぐための方法を考えるというものでも良いと思うし、起業させるためにはどうすべきかというものでも良いと思う。池田裕夫委員、いかがか。

【池田裕夫委員】

それぞれ意見を出し合うと、似た部分もあつたり、違う部分もあつて、意見が深まっ
ていくように思う。中には中村委員のように積極的な意見もあつたが、山岸委員までは
それほど違う部分はなかったと感じている。私もNPO雪のふるさと安塚に全てを期待
しているわけではないが、現在の中核であり、まずは話を聞かないと良いも悪いも分か
らないので、それも一つの方法であると思う。しかし、吉野委員の意見も無視できない
ものであり、非常に前向きなものであつた。具体的な水素やエネルギーの話もあつて、
それを進めても良いのかなと思つたり、その前にすべきことがあるのかなと感じたりし
て、まだ結論が出せていない状況である。

【松苗正二会長】

ほかに御意見のある方はいるか。

【外立正剛委員】

皆さんのお話を聞いて、特に感動したのは吉野委員が言われた将来に向けての取り組
みについてであつた。水素は現在色々なところで話題に挙がっており、水素工場を誘致
することによって全て解決するかどうかは分からないが、一つの夢として提案すること
は良いと思う。また、中村委員が言われたインターネットを活用した製品の販売促進と

いうのも良かった。この二本立てで進めていけば、安塚のイメージも向上すると思う。これだけ資源に恵まれた環境の中でそれを活用する方法を検討して、できるかできないかについては、市に任せるという形でも良いのではないか。人口減少を食い止めるためには夢を語ることも必要である。まずは関係する団体等の話を聞いてからということも考えたが、逆に地域協議会から提案していく方が良いと思うようになった。

【松苗正二会長】

ほかに御意見のある方はいるか。

【松野修委員】

現実的な話になってしまうが、今ある施設で連携しないと良くなるのではないかと。個人の利益もあるが、施設同士で協力し合うというのが一番初めに行うべき対処法であると思う。雪だるま物産館では作り手が少なくなっており、ほかの施設と連携しながら作ってもらうというのも一つの方法として考えられる。商工会も商店が少なくなり、観光という形にはなっていない。夢を語ることも良いと思うが、今ある施設同士の連携のあり方について意見を出すというのも必要である。

【松苗正二会長】

各団体が協力し合うというのはもちろん大切であるが、何年もかけて協議していくことになるので、今は個別の内容というよりも、大きなテーマを決めていきたいと思う。各団体のところや地域に行って話を聞く、インターネットを活用して情報発信する、既存の団体が協力し合う、といった意見が出ており、全て重要なことであるが、それらを集約した大きなテーマを決めていきたい。吉野委員が言われた安塚を元気にしていく、良くしていくというのが一つの方向性としてふさわしいと思うが、いかがか。

【吉野誠一委員】

私が言ったのは、突飛もない意見であると思うが、地域協議会の役割という視点から考えた時に安塚を良くするために地域協議会はこのことを審議して意見書を提出したので、市はその実現に向けて努力義務を果たしてください、と投げかけることが重要である。実現できるかどうかは市政の問題である。例えば工場誘致をしたらどうか、雪を利用したサーバー団地を整備したらどうか、あるいは日本一の高齢化の終の棲家を国策で安塚に作るよう市から働きかけてもらうことでそこで勤務する看護師など若い世代が増えるのではないかと、というような色々なアイデアが出てくると思う。野澤副市長の講演を聞いていると、なんとか元気を出して現状維持をしていくためにはどうしたら良いかという考えであるように感じた。そうではなくて、今よりも将来を少しでも良く

するためにどうしたら良いかという風に自分では考えて提案したものであるので、あまり気にしないでもらいたい。

【松苗正二会長】

吉野委員にプレッシャーをかけているわけではなくて、テーマとして考えるうえでは大きなものでなければいけないと思うので、その点について協議していきたい。皆さんからこれまで挙げられたものは個別の内容が多かったが、それを集約すると安塚を元気にするためにはどうしたら良いかということになると思う。それについて協議していつてはどうかと考えているが、いかがか。

【外立正剛委員】

安塚を良くしていくというのを一つの大きなテーマとして、そのためにどうするかを話し合っていけば色々な話が出てくると思う。どうしてもすぐに自主的審議を進めていかなければいけないというものではないと考えている。様々な課題があると思うので、安塚を良くしていくというのを一つの大きなテーマとして考えていけば良い。

【新保良一委員】

私の意見として最初に発言したように、地域の活性化のためには収入が伴い、生活が安定することが不可欠であると考えている。吉野委員の意見も共通する部分があり、それで企業誘致といった大きなテーマが出たのだと思う。企業誘致となると、私たちの手だけではどうにもならないが、思いは市に伝えることができるので、私も吉野委員と同じ考えである。どうすれば地域が活性化するかを考えた時に、若い人たちがいることが地域の活性化につながると思うので、収入を第一に考えた地域おこしをテーマにしたらどうかと考えている。

【池田康雄委員】

現実として若い人たちはもうほとんど安塚にいないのではないか。

【新保良一委員】

確かに今若い人たちは少ないが、企業誘致などにより呼び戻すことができるのではないかと考えている。地域協議会委員も60歳以上、70歳以上の人がほとんどになっているが、もっと若い人が入ってこないといけないと思う。

【松苗正二会長】

野澤副市長が先日講演された内容について、この場で議論する必要はないが、講演の中で以前は10数名の若い人たちが毎年安塚に来ていたのに今はほとんどいなくなっており、もっと魅力を発信してもらいたいというお話もあった。新保委員が言われたよう

にお金を稼げる場所があるということも一つの魅力になる。外立委員からは安塚を良くするためにどうしたら良いかというテーマにしてはどうか、新保委員からは地域の活性化については収入が重要であるので収入を確保するための方法を検討してはどうか、という御意見があった。私はこの二つは良いテーマになると思うが、何か御意見等あるか。

【山岸重正委員】

お金の問題について、先ほど意見があったと思うが、地域協議会はお金儲けなどを協議するところではない。地域の困りごとを聞き取り、その対策を市に求めたりすることが本来の地域協議会委員の役割であると思う。お金儲けの方法などを協議するのはおかしいと感じる。外立委員が言われたように安塚を元気にするためにはどうしたら良いかというテーマであれば問題ないが、お金儲けの話を前面に出すのはおかしいと思うが、いかがか。

【松苗正二会長】

山岸委員からお金の話はタブーではないかという御意見があったが、地域協議会は地域活動支援事業について、起業などお金を生み出すような内容を含む事業であっても応援するということになっている。地域を発展させるためにお金を生み出すような事業を一生懸命検討してもらいたいと地域に訴えることも問題ないと思うので、お金についての議論も問題ないと考えている。

【新保良一委員】

山岸委員は少し勘違いされていると思うが、私たち地域協議会委員がお金儲けをしようという話ではない。地域協議会委員が中心となり、安塚区の住民に少しでもお金を落とせるような計画を立てて、地域を引っ張っていったらどうかという意見である。地域協議会委員でお金を儲けようということではないので、そのところは勘違いしないでもらいたい。

【山岸重正委員】

勘違いはしていない。お金のことを言っているのではないか。

【新保良一委員】

収入が伴わなければ真の地域活性化につながらないということを申し上げている。

【池田康雄委員】

私は先ほど安塚に若い人はもうほとんどいないというようなことを申し上げたが、キューピットバレイが昨年の12月から営業再開できたことで、目標には届かなかったとしても、若い人たちが安塚区外から車などで土日を中心に結構来ていたように感じる。

キューピットバレイが営業再開できていなかったら、そういう人たちは来ていなかったはずであり、中核となる施設の維持は重要であると思った。

【外立正剛委員】

収入を上げるというテーマで取り組むことは私も良いと思うが、先ほど中村委員が言われたインターネットの活用や松野委員が言われた施設との連携を図ることも収入を上げる一つの手段として考えていけるのではないかと思う。安塚を良くするというテーマの中で、その一つのテーマとして収入を上げる方法を検討することも可能である。大きなテーマとしては、安塚を良くするにはどうしたら良いかということで取り組み、その中で収入をはじめとする個々の内容を検討しながら、最終的に意見書のような形でまとめていければ良いと思うが、いかがか。

【小松光代委員】

テーマを一つ決めるとすれば、外立委員が言われた安塚を元気にする、良くするというものを大きな一つのテーマとして挙げて、その中で具体的にどんな取り組みが必要かということで、手段として収入を上げるためにはどうしたら良いか、既存の施設の連携を図るためにどうしたら良いか、といった細かい内容を検討していけば良いと思う。

【池田裕夫委員】

松苗会長から大きな広いテーマでというお話があったが、皆さんそれは分かっている希望していることであり、また話が振り出しに戻ってしまうように感じた。ある程度広いテーマにしてしまうと、途中で方向がずれてしまったり、進めるのが難しくなってしまう気がするので、この場では決まらないのではないか。しかし、新保委員と山岸委員の間で話し合いが行われるなど、前に進んだ部分も多かった。意見が食い違ったり、同調したりしながら進めていくのが進め方としてあるべき姿であると思う。今日結論を出すことが難しいとしても、このような話し合いをもう少し続けても良いと考えている。

【吉野誠一委員】

私はとにかく安塚を良くするためにはどうしたらいいかということを考えている。安塚がこうなってしまったのはなぜかというところに考えるヒントがあって、そこに抜本的なメスを入れないと良くならないと思う。人口を増やす方法を考えるうえで、上越市創造行政研究所も述べているが、まず就労人口が増えないと定住人口も増えないのである。創造行政研究所では今後どのように人口減少が進行していくかというシミュレーションもしており、そういったものも参考にしながら、そこにどうすればメスを入れられるのか、メスを入れるために地域協議会から何かを提案して市に意見を出すことが地域

協議会の役割の一つであると思う。市が実際にやってくれるかどうかは分からないけれども、とにかく提案をして、意見書にまとめてぶつけていくというのが重要な役割である。

【松苗正二会長】

吉野委員が言われることはもっともであるが、意見書はすぐにまとまるものではないので、時間をかけてまとめたものを提出する形になると思う。

【吉野誠一委員】

もちろん時間はかかる。意見書を出すという権限を持っているのであるから、それを使わない手はない、ということである。

【池田裕夫委員】

この時点で岩野所長に一度お話を伺いたい。

【吉野誠一委員】

あまり行政の立場で入ってもらわない方が良いのではないかと。

【松苗正二会長】

私も一度お話を伺いたい。

【岩野所長】

これまで一通り御意見を伺った中で、思ったことを述べさせていただく。

まず、先般2月23日（火）に安塚の元気をつなぐまちづくりの集いを開催したが、これは偶然地域協議会で自主的審議を検討するタイミングと重なってしまったものである。皆さんからも出席いただいたが、集いの場で話した内容を地域協議会の自主的審議のテーマにしてもらいたいという趣旨で開催したものではないので、御理解いただきたい。

当日、途中の意見交換の前にも説明させていただいたが、集いを開催した趣旨を今一度説明させていただく。安塚区内にある住民組織はそれぞれ長年活動されている中で、人口減少等の問題もあって、現在組織がかなり弱体化してきている。結成した当時とは、様変わりし、多くの課題を抱えているというお話を以前から耳にしており、まずは各団体の皆さんが現在抱えている課題と将来に向けてのお考えを伺いたいと思い、昨年度全ての団体に対して総合事務所が聞き取りを実施した。課題としては人材不足が共通の課題であり、このままの状況では将来的に存続していくことが難しいという御意見を多くいただいた。それらの現状を踏まえ、各団体の皆さんが集まり、連携の方法などを話し合ってもらったことで、例えば相互に人的な支援をしたり、個々に持っている業務をほ

かの団体に移行したりといった形でお互いに補完し合い、存続が可能となる方法を検討する場を設けたいという考えから集いを開催した。NPO雪のふるさと安塚が主体となってというのは、NPO雪のふるさと安塚に全てを任せるということではなく、各団体が集まって協議をする際に取りまとめ役が必要となるため、区内のまちづくりの中心となっているNPO雪のふるさと安塚に取りまとめをしていただきたいということである。こういった取り組みを進めているということを区内の皆さんにお伝えしたいと考え、先日の集いを開催したところであり、自主的審議と直接結びつけていただく必要はない。

本日の意見交換の中でそのほかに出てきた御意見として、安塚を良くするためにという大きなテーマにしてはどうかという御意見があった。正直なところを申し上げますと、各地域協議会で取り組んでいる自主的審議はその地域自治区を良くするためのものであり、それ以外の何ものでもないと思っている。例えば人口減少や空き家、小中学校の統合といったテーマで自主的審議に取り組んでいる地域協議会があるが、内容は違えどそれらは全てその地域自治区を良くするために取り組んでいるものである。地域を良くするために考えた時にその下に色々なやるべきことがぶら下がっていると思うので、ぶら下がっているものの中から一つないし二つをテーマとして決めて、具体的に協議を進めていっていただきたい。新保委員から地域にお金を落とすというような御意見があったが、安塚から若者を流出させないようにする、あるいは移住者を呼び込んで人口を増やすといったことを目指すうえで、生活するための収入を得るための仕組みをつくることは必要不可欠であり、そういったことをテーマとするのは問題ないと考えている。

自主的審議のテーマ決定について、特に期限はない。しかし、令和2年度の活動スケジュールでお示ししていたように、令和2年度末までにテーマを決定する予定としていた。本日決定できないとしても、どこかに目標を立てないとずるずると先延ばしになってしまう恐れもあるため、タイミングの良い時期に目標を設定してそこに向かっていただきたい。そのほか意見書を提出するという御意見があったが、確かにこれは地域協議会の重要な権限の一つである。純粋に安塚を良くするためにはどうしたらよいかというところからスタートして、具体的に検討していくことになると思うので、協議を重ねたうえで市に意見書を提出すべきだということになれば、意見書を提出するという流れで問題ない。これまでの皆さんからの御意見をお聞きした中での私の感想は以上である。

【松苗正二会長】

岩野所長から貴重な御意見をいただいた。もう少しテーマを絞って検討を進めてはどうかという内容であったと思う。このことを踏まえて、御意見のある方はいるか。

【岩野所長】

もう1点お願いしたい。これまでの意見交換をお聞きしたところ、本日の協議会の中でテーマを決定するのはなかなか難しいと感じている。そこで、事務局からの提案であるが、安塚を良くするためにどうすべきかということで、次回までに各自検討していただく形にしてはいかがか。

【松苗正二会長】

岩野所長から聞かれた内容について、この場で結論を出すことは難しいと感じている。A班から各団体のところに出向いて話を聞いてくるという御意見があったが、それも一つの方法であると思う。その中で問題点を洗い出すことができるのではないか。そうでないと、例えば小中学校の統合などをテーマとした場合に議論を進めることが難しくなるような気がしている。

【山岸重正委員】

各団体のところに出向いて話を聞いてはどうかということであったが、以前に吉野委員から同様の提案があったのではないか。その時に協議をした中では、そういうことはしなくて良いという結論が出ていた。それと同じことではないのか。

【松苗正二会長】

以前に議論したのは、施設の維持管理について、該当する地域に出向いて話を聞く必要があるかどうかということであり、今回の件とは趣旨が異なると思う。

【岩野所長】

今山岸委員が言われているのは、前々回くらいの地域協議会で協議した公の施設の適正配置計画についてのお話のことでよろしいか。

【山岸重正委員】

そのとおりである。

【吉野誠一委員】

地域住民や各団体のところに行って話をするというのは、地域協議会委員の日常的な活動の一つであり、今までしていないのがおかしいくらいだと私は思っている。また、テーマとして安塚を良くするためにどうしたらよいかということがクローズアップされているように感じるが、せっかくこれまで3班に分かれて意見交換をしてきたので、せめて三つくらいの各論を班ごとに振り分けして話し合ってみてはどうか。例えば、A班は人口問題についてどうすべきか、B班は集落の維持のためにどうすべきか、C班は産業をもう一度盛り上げるためにどうすべきか、という形で各論を詰めて、これをす

れば安塚は良くなるというところへ持っていかないと、堂々巡りで終わってしまうと思う。

【松苗正二会長】

吉野委員から、前回まで3班に分かれて話し合った内容があるので、それを詰めて一つのテーマに絞っていったらどうかという御意見があった。これについて、何か御意見のある方はいるか。

【松野修委員】

良くするためと言うと、すごくハードルが高いように感じるので、今住んでいる人が元気になるためにという風に置き換えて考えたい。ほかに良いテーマが出てくれば別であるが、少子高齢化はこの先も止まらないと思うので、中学校の統合問題が重いテーマではないかと思っている。地域協議会として、子どもたちや父兄の皆さんの話をこれまで聞いていない。吉野委員が言われるように人口を増やすためには大きいテーマで取り組んだ方が良いが、現実的なことも考えて、地域の皆さんの意見を聞きながら取り組んでいく形が良いと思う。

【吉野誠一委員】

おっしゃることは分かるが、それは諦めであると思う。現状維持のためにどうするかということではなく、現状より良くするためにどうするかを考えるべきである。できるかどうか、市が我々の意見を聞いて実現してくれるかは分からないが、夢物語をぶつけないことには、地域協議会が持つ権限を上手に使えないと思う。

【松苗正二会長】

ほかに御意見等あるか。

【新保良一委員】

今の吉野委員の御意見は非常に大切な考えであると思う。

【松苗正二会長】

吉野委員から、3班に分かれて意見交換をしてきた経緯を踏まえ、班の中で個別のテーマについて議論する場があった方が良いという御意見があった。そのような形で進めてよろしいか。

【池田裕夫委員】

雪だるま財団やNPO雪のふるさと安塚に話を聞くという意見があったが、聞き方もすごく難しい。単純に意見を聞いてこようという考えでは、上手く意見を引き出せないと思う。そういう意味では、松苗会長から提案があった方法も有りだと思う。

【松苗正二会長】

先日の集いで5団体の話を聞いたが、結局具体的なものは何も出なかったと思う。

【吉野誠一委員】

色々な団体のコーディネーターを務めようとの意思がNPO雪のふるさと安塚からは感じられなかった。野澤副市長はNPO雪のふるさと安塚にそうなってほしいということと話していたが、NPO雪のふるさと安塚の方にはそのような姿勢が見えなかった。

【松苗正二会長】

学校の統合などに関して言えば、我々は詳しい内容を承知していない部分もあるので、それを具体的に議論するのは難しいのかなと感じる。個人的には、新保委員が言われた安塚で生きていくために収入確保の道筋をつけることができるような方策を検討するというのは、いいテーマであると思う。どうすれば住民組織などが安定した収入を得られるのかを議論することは大切である。

【吉野誠一委員】

NPO法人になれば、利益を追求してはいけないと思う。

【松苗正二会長】

特定非営利活動法人であるからそのとおりである。

【中村真二委員】

NPOであっても商売をしてはいけないわけではない。働いた分を働いた人がもらうのは問題ない。株主のように利益を配分してはいけないということである。

【松苗正二会長】

どのように進めていったらよろしいか。

【吉野誠一委員】

一定のテーマを決めないと進め方が見えてこないと思う。

【外立正剛委員】

先ほどから話している、安塚を良くするために、というのは一つのテーマであると思う。その中で企業の誘致など夢を語れるような将来像が見えてくる部分もあったり、収入を確保するためにどのようにしていけばいいのか、という話が出てくる。岩野所長からはもう少し具体的にというお話もあったが、大きなテーマを掲げてその中で三つくらいの細かいテーマに分けて検討していくというのも一つの方法ではないか。テーマが小さすぎると、どれが問題なのか分からなくなってしまう気がする。

【松苗正二会長】

外立委員から、安塚を良くするためにというテーマで良いのではないかと、その中で定住人口の確保といった個別テーマを設定して進めていってはどうか、という御意見があった。安塚を良くするためにということで、三つのテーマを作って議論していく過程で絞っていくというのも有りかなと思うが、いかがか。

【新保良一委員】

それで結構である。ただ、皆意見を一通り出し切って、疲れている部分もあるので、正副会長の方で次回までにテーマの案を決めていただいても良いと思う。

【吉野誠一委員】

安塚をどうすれば良くすることができるのかというところに主題があるとすれば、A班は人口減少に歯止めをかける方法、B班は産業の活力を生み出す方法、C班はコミュニティを維持する方法、という風に三方向から詰めてまとめたものが、安塚を良くするための一つの方法論であると言えるのではないかと。主題が決まれば、その後は正副会長の方で振り分けしていただいても構わない。

【松苗正二会長】

皆さんの御意見を踏まえ、3班でもう少し議論をする中で内容を詰めて、テーマを決めていくということによろしいか。

（「はい」の声多数）

それでは、次回以降の会議終了後に3班に分かれて意見交換を行うこととする。

次に安塚区地域協議会としての審議内容について、確認を行う。事前に事務局へ審議依頼書の提出はあったか。

【大橋次長】

事前の提出はない。

【松苗正二会長】

今回審議依頼書の提出はなしということで、審議依頼事項がある場合は、また次回協議会開催日の1週間前までに事務局へ提出をお願いしたい。

次に次第5その他（1）次回協議会の開催日について確認する。通常であれば次回は4月27日（火）開催となるが、御都合いかがか。

【吉野誠一委員】

その日は安塚町内のまつりの日である。

【松苗正二会長】

それでは、日にちを変更したいと思うが、いつがよろしいか。

【中村真二委員】

4月28日（水）であれば問題ない。

【松苗正二会長】

4月28日（水）という御意見があったが、他の皆さんはそれでよろしいか。

（「はい」の声多数）

皆さんの御都合が確認できたので、4月28日（水）とする。時間については、3月まで午後6時開始としていたが、4月以降は7時開始としてよろしいか。

（「はい」の声多数）

それでは、次回は4月28日（水）午後7時から開催とする。

ほかに連絡事項等あるか。

【萬羽主事】

地域協議会に関する意識調査の結果について連絡。

令和3年度地域活動支援事業に係る配布資料について連絡。

【大橋次長】

第11回地域協議会における消防団安塚方面隊安塚分団の体制見直しに関する報告に対する質問事項への回答。

雪中貯蔵施設「ユキノハコ」のオープンについて連絡。

【吉野誠一委員】

雪中貯蔵施設の利用希望はどれくらいあったのか。

【大橋次長】

現在募集をしており、一定程度利用希望があることは承知しているが、具体的な数字は本日持ち合わせていない。

【吉野誠一委員】

別件でもう一つお聞きしたい。昨年新年度予算の安塚区版のようなものが配布されていたと思うが、今年も配布されるか。

【大橋次長】

安塚区の主な事業についての資料のことであると思うが、昨日予算も議決されたため、次回の地域協議会において配布する予定である。

【岩野所長】

今シーズンの雪だるま高原の入込実績について連絡。

【松苗正二会長】

スマイルリゾートについてお聞きしたい。今シーズンの入込実績は目標の半分程度ということであるが、収入等の数値によって撤退といった可能性はあるのか。

【岩野所長】

今シーズンはコロナ禍や豪雪などの事情によって、明らかに入込の減少という影響を受けている。これに関して、補正予算により市から補填が出ていることから、営業については問題なくやっていけるものと思っている。

【松苗正二会長】

減少する理由があれば、市から補填がなされるため心配ないということによいか。

【岩野所長】

ほかの施設でも同様に補填を受けている施設が存在する。

【松苗正二会長】

それを聞いて安心した。

ほかに質問等あるか。

(質問なし)

【松苗正二会長】

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

安塚区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-592-2003 (内線 23)

E-mail : yasuzuka-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せて御覧ください。